

無気力傾向から不登校となった生徒への指導援助

1. はじめに

中学2年のC男は、遊び友達も少なく、内気でおとなしい生徒である。

中1のころは、週に1～2日程度の欠席であったが、中2の5月初めからは、全く登校しなくなった。

このC男に対し、学級担任（美術担当）は、ラポールを図りながら、長期的・短期的目標を持たせ、絵の好きなC男の特性を生かした指導・援助を行った。その結果、C男は少しずつ意欲を回復し、ときどき保健室登校をするようになった。

2. 問題の概要

学校では

中1の時は、同じ小学校から来た友達が、C男を支えてくれたため長欠にならずにすんだ。

中2の組み替え後、級友の中に入っていけず、一人であることが多くなった。4月に実施したY-G性格検査ではE型（不安）を示している。

家庭では

中1のころは、登校していたが、朝になると腹痛や頭痛を訴え、週に1～2回休むことがあった。

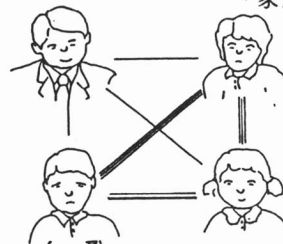
中2の5月ごろからは、自室に閉じこもり、友達や担任に会うのも避けるようになった。

3. C男のプロフィール

(1) 家庭環境

父42歳 自営業
口数少なく放任
仕事熱心

母39歳 主婦
過保護 期待過剰型で
情緒不安定
家族中心的で排他的



本人 14歳 中2

妹 9歳 小5

明るく活発
運動大好き 勝ち気
成績も良い方
兄とは仲がよい

(2) 生育歴

- ・正常分娩 3650g
- ・3歳時検診 異常なし
- ・家の中で母と二人で過ごした。
絵が好きでよく描いていた。
- ・幼稚園のころより一人遊びが多い。
- ・行動が遅くいやになるとすぐにあきらめて投げ出す。
- ・「疲れるから」と運動を嫌った。
- ・学力は、学級で中程度である。

(3) 友人関係

- ・幼稚園のころから遊びの中に入っていけず親や教師のかけにいた。
- ・小学生のころは友達の家遊びに行くことは少なく、室内で遊んでいた。
- ・中学生になってからは、声をかけてくれる友人2人と話すぐらいである。